

おとずれ

(発行者) 富士吉田カトリック教会

(住所) 〒403-0005

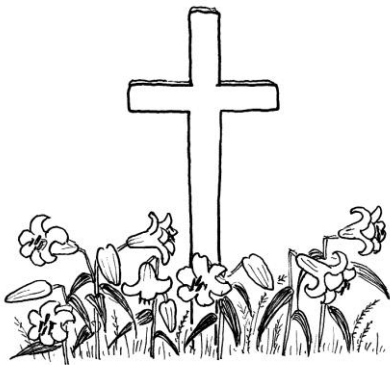
山梨県富士吉田市上吉田3-5-7

(TEL&FAX) 0555-22-3199

2018年11月第435号 ホームページ <http://www.fgo.jp/~catholic/index.html>

諸聖人の日・死者の日

主任司祭 内藤 聡



11月ということでカトリック教会では死者の月を迎えています。富士吉田教会でも追悼ミサなどが行われますが、既に天の永遠のすみかに招かれた方々のことを思い起こして祈るとともに、今、生きている私たちもいつか必ず地上の道のりを終えて、神が備えてくださっている天の国に招かれていることを改めて意識したいものであります。

亡くなった人のために祈るということは、人間のごく自然な動きから出るものです。

それは、すでに亡くなってしまった人たちも含めて、自分が他のすべての人とのつながりの中に生きているという本能的な自覚によるものだと思います。

そこで、11月は1日の『諸聖人の祭日』から始まります。諸聖人とは、広い意味での聖人のことです。この世とあの世にいる、救われたすべての人のことを言います。そして、すべての人の救いの恵みは、救い主であるキリストから来ますし、キリストからしか来ません。洗礼を受けた人はこの世でキリストに結ばれ、洗礼を受けなかった人はその死の瞬間にキリストにつながれて救いの恵みを受け、聖人になるのです。しかし、このつながりは、それぞれが一本の線でキリストに結ばれてあるのではなく、キリストを中心とした無数の線ですべての人があたかも網の目のようにつながって成り立っているのです。

もし私たちが天の国に入ったとしても、私たちが大切に思っている人、私たちが知っている人の誰か一人でも天の国に来ないとすれば、私たちは本当の意味での幸福ではないと思います。つまり、私たちとの関わりがあるすべての人の救いがなければ、私たちの救いはないということになります。つまり、私たちがキリストに結ばれて受ける救いの恵みは、私たちにつながれているすべての人々にも及んでゆくということです。

神のみもとにいる聖人たちは、神と人との唯一の仲介者イエス・キリストをとおして、この地上の旅を続けている私たちのために、執り成しをしてくださっています。こうして、私たちは自分でも気づかないうちに、聖人たちの執り成しによって、助けられています。

聖人たちは、私たちの模範としてだけ存在しているわけではありません。諸聖人との交わりによって、私たちがキリストにより近くから従っていくようにと、キリストとより強く結び合わされるのです。

そして、亡くなられた方々も、イエス・キリストの神秘体に属する人々です。教会は、その最初の時代から、死者の記念を行い、死者に尊敬を払っていました。そして、亡くなられた方にもし罪が残っていたとするならば、彼らとその罪から解かれるように、祈ってきました。このような死者のための私たちの祈りは、死者を助けることになるのです。

死者の月を迎えるにあたって、亡くなられた人のために祈り、また今を生きている私たち一人一人のためにも、心を合わせて祈りを捧げてまいりたいと思います。

一粒会大会に参加して

猪俣 瞳子

9月17日に開催された第51回横浜教区一粒会大会に参加する機会を得ました。葦崎教会、甲府教会、塩山教会の方々と共にバスで開催場所である聖セシリア女子中学校・高等学校に向かい、他教会の方と交わる良い時間となりました。

今回の大会のテーマは「いつも祈っていますか？子どもたちに伝えていますか？」というものでした。開会式では現在日本のカトリック教会が直面している問題について言及するとともに、司祭の召命を求める祈りで開会されました。

講話では東京教区の稲川圭三神父様から「神さまがあなたと共におられます。キリストが復活しておられます。聖霊の交わりが豊かにあります。」というテーマでお話をいただきました。9年間小学校の教員をされていた稲川神父様は、子どもたちにも伝わる言葉を使い、幼い頃から教員時代そして司祭になってからの経験を通して、祈ることの大切さや祈りの持つ力について解りやすくお話してくださいました。幼い頃から通っていた教会の主任司祭からは、子どもの頃から大人になるまでの間に三度「圭三、おまえ神父になれ。」と言われながらも教員の道を歩むことを決めたこと。そして教員として子どもたちと向き合う毎日の中で、司祭を志すときが訪れその道が与えられたということを感じ、そのように召し出されたのは、やはり祈りがあったからなのだということを感じました。

この大会に参加する少し前に、小学校の時の恩師と「願い」の中で育つことと「祈り」の中で育つことの違いについて話す機会がありました。長い間教員として多くの子どもと関わってきた先生は、「願いのない教育などありえないと思う。願いを強くもつのは当然のこととして、もっと大切なことがあると近頃思うようになってきた。それは、生きていく主体者としての意志を育むこと。それが祈りの中でこそできるのではないかと思う。」とおっしゃいました。「願い」というのは誰もがもっているものであり、必要なことだと思います。しかし、願うことだけではなく祈るということによって育まれるものがあるということに気付かされました。私の中には漠然と願いがあるから祈るのだという感覚があったのですが、「願い」の中で育つということと「祈り」の中で育つということでは違いがあるのです。稲川神父様の講話に耳を傾けながらそんなことを考えました。

祈りの中で意志を育むことは簡単なことではありません。耐えることや待つことが必要になることもあると思います。しかし、神さまの言葉を信頼し御旨に叶う世界の実現のために祈ることはとても大切なことです。子どもたちには祈りの中で育ってほしいと思います。そして私

達はいつも心を合わせて主に祈れるようにならなければなりません。稲川神父様は、「祈ることは難しいことではありません。どう祈ったらいいかわからなかったら、『神さまがあなたと共におられます』だけでいいのです。」と教えてくださいました。神さまが共にいてくださる。それは何よりも心強く揺るぎない支えとなります。幼児洗礼の私にとって「祈り」は幼い頃から身近なものではありましたが、祈るということを改めて考える機会が与えられたことに感謝しています。

講話が終わると次は「神父様おしえて」という神父様が子どもたちの質問に答えてくださるコーナーでした。子どもたちの素直で率直な質問に、7人の神父様が丁寧に答えてくださいました。普段はなかなか伺うことができない神父様のプライベートな一面をお聞きすることができ、子どもたちだけでなく私達も神父様をより身近に感じることができる楽しい時間でした。「子どもとともにささげるミサ」では、この大会の前々日9月15日に叙階された崔源太神父様のお説教がありました。韓国から宣教師として日本に派遣されて司祭となり、今どのような思いでいらっしゃるのかということをお話してくださいました。母国を離れ司祭職を全うするために日本に来てくださっている神父様が大勢いらっしゃることを思いました。それは本当に大きなお恵みです。「収穫は多いが、働き手が少ない。」という主の言葉にあるように、厳しい状況の中働いてくださっている多くの神父様に感謝し、私達信徒も心を合わせて歩んでいくことができるように祈っていきたいと思いました。

お 知 ら せ

山梨ダルク10周年記念フォーラム

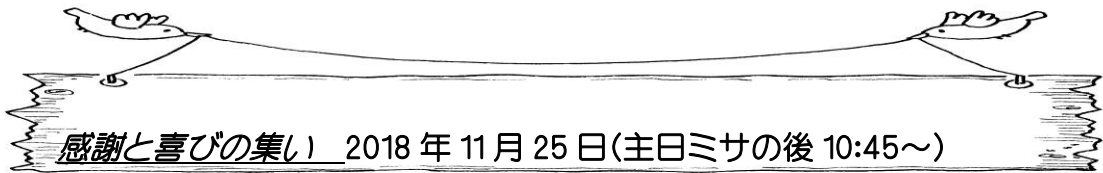
山 梨 ダ ル ク 人 た ち

日 時 2018年11月10日(土) 10:00~16:30 (開場9:30)

会 場 甲府市総合市民会館 芸術ホール

プログラム内容 1部「山梨ダルクとは」 2部「山梨ダルク物語」

薬物依存からの回復のために、日々努力している人たちへの祈りとサポートを
宜しくお願い致します。



教会の暦では、この日、年間最後の主日「王であるキリスト」のお祝い日です。

今年の日本では、大きな災害がたくさんありました。

世界に目を向けると、争いや自然災害で苦しむ子どもたちがまだまだたくさんいます。

皆さんはいかがでしたか？無事にこの一年をすごせましたか？まわりの方々はお元気ですか？

日本や世界中の苦しむ人々の平安を願いながら、神様からいただいたお恵みに感謝し、

そして楽しいひと時をすごしましょう！



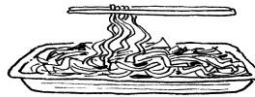
遊休品集めます。(衣類はごめんなさい！)

手作りお菓子など作ってくださる方

大募集！お申し出ください！

お野菜もありますよ！

富士五湖ダルクの皆さまのやきそば



*収益金は、世界で苦しむ子どもたちの支援を行う「日本ユニセフ」と飢えや渴きに苦しむ国々に食糧等の支援を行う「国連WFP(世界食糧計画)」に送り、世界の兄弟姉妹のためにお使いいただきます。

財務よりお願い

10月14日には教会委員会での「2019年度予算」の承認、そして平素は、「維持費」「修繕積立」等のご協力をいただき、併せて感謝申し上げます。

教会聖堂は、6年前の「司祭・信徒館」建設の折に、信徒の皆様へのアンケートに基づき、建設委員会の総意として「建て替えるのではなく、既存の聖堂を大切に使う」と確認され、「維持費」の袋と共に「修繕積立金」袋を各世帯にお配りし、今日に至るまでご協力いただいております。

聖堂は耐震基準が出来る前の古い建物です。本年は大きな台風がいくつも日本を襲い、富士吉田教会聖堂も外壁ペンキ等が剥がされ、足場を組んでの大規模な修繕が必要になりました。この工事は現在皆様からいただいている「修繕積立金」の年間献金額を大きく上回る模様です。そのために「修繕積立金」のご協力を、尚一層お願いしたい次第です。厳しい経済状況の中でお願いすることは、大変心

苦しいことですが、毎月納入いただいている「修繕積立金」をわずかな額でも増額いただくか、あるいはミサの折に聖堂後方に置かれている「修繕積立金」箱に臨時献金を入れていただく、等のご協力を、よろしくお願いいたします。



若い信徒の皆さまへ…

結婚された信徒の皆様やお仕事を始められ収入を得られるようになった信徒の皆様。

「教会維持費」のご協力をいただきたいです。信徒の皆さまの尊い献金が、神父様方のお給料や宗教活動を支えています。

横浜教区からの「維持費献金の目安」としては、収入の1～3%が推奨されていますが、各個人の負担にならない程度の献金で構いません。

より良い、魅力あるカトリック教会を作り出していくためには、信徒の一人ひとりのお力が欠かせません。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

教会委員会記録

10月14日19名参加

1. 10月～11月の典礼（こよみ参照）
2. 敬老会の報告
3. 一粒会の報告
4. 山梨地区宣教司牧委員会報告 11月23日（金）神学院「ザビエル祭」参加について
5. 2019年度予算について
6. 教会修繕について
7. 「感謝と喜びの集い」について 遊休品11月4日から24日まで回収
8. 巡礼の方々に記念に差し上げるハガキについて
9. 来年5月か6月雪ノ下教会へ巡礼を計画したい

教会記録

帰天 10月3日 ご冥福をお祈り申し上げます。

マリア エリザベト 林 房子様

こよみ



11月

- 1日 (木) 諸聖人 (祭日)
 - 2日 (金) 初金曜日ロザリオ 10:00 ミサ 10:30 死者の日
 - 4日 (日) 年間第31主日ミサ 9:30 教会委員会 (聖堂掃除は河口湖・都留地区)
 - 9日 (金) ラテラン教会の献堂 (祝日)
 - 10日 (土) 聖歌練習 9:30
山梨ダルク10周年フォーラム甲府市総合市民会館 10:00
 - 11日 (日) 年間第32主日子供と共に捧げるミサ 9:30 七五三 お墓参り
(聖堂掃除は日曜学校・河口湖・吉田地区)
 - 14日 (水) 手芸会 9:30
 - 18日 (日) 年間第33主日国際ミサ 9:30 貧しい人のための世界祈願日
聖書週間 (25日まで)
(聖堂掃除はインターナショナル・山中・忍野地区)
 - 23日 (金) ザビエル祭日本カトリック神学院 吉田教会 6:40 出発
 - 24日 (土) 感謝と喜びの集い準備 13:30
 - 25日 (日) 王であるキリスト ミサ 9:30 初聖体・幼児洗礼
感謝と喜びの集い 10:45～
 - 30日 (金) 聖アンデレ使徒 (祝日)
- *****
 イタリア語教室 月曜 10:00 5日・12日・19日・26日
 日曜学校 ミサ後 11日・18日・

12月

- 2日 (日) 待降節第1主日ミサ 9:30 宣教地召命促進の日 (献金) 教会委員会
- 7日 (金) 初金曜日 ロザリオの祈り 10:00 ミサ 10:30
- 8日 (土) 無原罪の聖マリア

11月のミサ奉仕

日	先唱	聖体奉仕者	侍者	第1朗読	第2朗読	歌伴奏
4	東海林義夫	山本一孝	一雄	福永好雄	小松二三子	シスター
11	曾根美香	栗原今朝夫	天翔	江守香代子		シスター
18	東海林美佐子	—	正人	英語		シスター
25	東海林美佐子	東海林義夫	一雄	栗原今朝夫	相沢千代子	シスター